



シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-B8 環境問題を 考える	20140586008101	●環境問題を 考えるI(地 球温暖化を考 える)	和	E	高尾 雄 二	1年,2年,3年,4年	後期	木 1	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-B8 環境問題を 考える	20140586008501	●環境問題を 考えるI(水 環境を考 える)	和	E	長江 真 樹	1年,2年,3年,4年	後期	木 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-B8 環境問題を 考える	20140586008901	●環境問題を 考えるI(環 境政策を考 える)	和	E	西久保 裕彦	1年,2年,3年,4年	後期	金 2	～

[戻る](#)

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B8 環境問題を考える**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586008101	科目番号	05860081
授業科目名	●環境問題を考えるⅠ(地球温暖化を考える)		
編集担当教員	高尾 雄二		
授業担当教員名(科目責任者)	高尾 雄二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高尾 雄二,河本 和明,富塚 明,和達 容子		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部		
担当教員Eメールアドレス	高尾雄二(takao@nagasaki-u.ac.jp), 河本和明, 富塚 明, 和達容子		
担当教員研究室	環境科学部3階, 2階, 4階		
担当教員TEL	内線2753		
担当教員オフィスアワー	月曜日9:00-10:30		
授業の概要及び位置づけ	温室効果のしくみを学び、それに伴う気象および気候の変化を学ぶ。また、関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国家間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。		
授業到達目標	温暖化の仕組みやそれに密接に関連する重要項目および国際関係を理解し人に説明することが出来る。		
授業方法(学習指導法)	グループワークを組み込み、予習を前提にしたアクティブラーニング方式、または、講義後に小テストまたは班別討議等を行う。講義のレベルおよび内容は、学部混合型であることを前提に、できるだけ平易な表現を使って、理解しやすい内容を提供する予定です。		
授業内容	第1回 オリエンテーション 概要と進め方, 班分け, Web Class登録の説明 第2回 地球大気の特徴 第3回 気候を決める仕組み 第4回 気候変動の要因 第5回 将来の気候 第6回 閉じた地球と化石燃料 第7回 燃焼と大気汚染, さまざまな発電方式の比較 第8回 資源と太陽エネルギーの起源 第9回 エネルギー保存と物体の温度 第10回 温室効果ガスと地球温暖化 第11回 再生可能エネルギー活用の現状と展望 第12回 地球温暖化に係る国際条約の成立(1) 第13回 地球温暖化に係る国際条約の成立(2) 第14回 地球温暖化問題と国際政治の関係(1) 第15回 地球温暖化問題と国際政治の関係(2) 第16回 定期試験		

キーワード	温室効果, 地球温暖化, 物質収支, エネルギー収支, 化石燃料, 各国の立場
教科書・教材・参考書	特に指定はなし。予習時に各自で調べる。必要があれば配布する。
成績評価の方法・基準等	予習も含めて授業への積極的な参加(20%), レポートや小テスト(20%), 発表内容(10%), 期末試験(50%) 班による活動を中心とした授業形式であるため休みがちまたは予習をさぼりがちな人は班員に多大な迷惑が生じますので, 欠席と未予習に対しては厳しい評価をします。
受講要件 (履修条件)	特にありませんが, Web Classが使える(予習課題の確認。レポート提出など)ことを前提として授業を進めます。
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	適宜指示します。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B8 環境問題を考える**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木2																		
開講期間																					
必修選択	選択	単位数	2.0																		
時間割コード	20140586008501	科目番号	05860085																		
授業科目名	●環境問題を考えるⅠ(水環境を考える)																				
編集担当教員	長江 真樹																				
授業担当教員名(科目責任者)	長江 真樹																				
授業担当教員名(オムニバス科目等)	長江 真樹, 仲山 英樹																				
科目分類	全学モジュールⅠ科目																				
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																		
教室	[教養B棟]B-34																				
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部																				
担当教員Eメールアドレス	nagae@nagasaki-u.ac.jp																				
担当教員研究室	環境科学部3階 環309-2 長江教員室																				
担当教員TEL	095-819-2755																				
担当教員オフィスアワー	月曜日 8時30分~10時																				
授業の概要及び位置づけ	本講義では、我々の生活において必要不可欠な水資源の利用およびそれがもたらす水環境への影響について学ぶ。具体的には、上水および下水に関連した種々の水処理技術を習得するとともに、人間の水利利用によって水環境がどのような影響を受けるのかを理解する。また、水環境汚染度合いの判定に関する各種測定法について学ぶ。さらに、水環境の汚染が様々な水辺の生き物に与える影響や植物等を利用した水質浄化の実例について学び、水を中心にヒトを含めた様々な生き物が多様で密接な関わりを持つことを理解する。																				
授業到達目標	水環境汚染について具体的に説明できる。上水と下水に関連した種々の水処理技術について説明できる。水環境汚染を定量的に調べるための測定法を説明できる。水環境汚染が水辺の生き物に与える影響について具体的に説明できる。																				
授業方法(学習指導法)	講義形式																				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション(講義内容説明・担当教員紹介)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>水環境汚染の実態(過去に発生した主に重金属等(鉱山採掘等)による、いわゆる「公害」として発生した水環境汚染と、都市化によって引き起こされる有機物による水環境汚染)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>水環境汚染の評価法・測定法(DO, BOD, COD, TOCの測定原理、数値の意味等について)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>下水処理-1(活性汚泥法を中心とした有機物除去+高度処理&amp;特殊処理)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>下水処理-2(活性汚泥法を中心とした有機物除去+高度処理&amp;特殊処理)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>浄化槽による下水処理(浄化槽設置の背景・意味、環境への負荷等)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>上水処理-1(普通沈殿-緩速ろ過、薬品沈殿-緩速ろ過)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>上水処理-2(消毒)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション(講義内容説明・担当教員紹介)	2	水環境汚染の実態(過去に発生した主に重金属等(鉱山採掘等)による、いわゆる「公害」として発生した水環境汚染と、都市化によって引き起こされる有機物による水環境汚染)	3	水環境汚染の評価法・測定法(DO, BOD, COD, TOCの測定原理、数値の意味等について)	4	下水処理-1(活性汚泥法を中心とした有機物除去+高度処理&特殊処理)	5	下水処理-2(活性汚泥法を中心とした有機物除去+高度処理&特殊処理)	6	浄化槽による下水処理(浄化槽設置の背景・意味、環境への負荷等)	7	上水処理-1(普通沈殿-緩速ろ過、薬品沈殿-緩速ろ過)	8	上水処理-2(消毒)
回	内容																				
1	オリエンテーション(講義内容説明・担当教員紹介)																				
2	水環境汚染の実態(過去に発生した主に重金属等(鉱山採掘等)による、いわゆる「公害」として発生した水環境汚染と、都市化によって引き起こされる有機物による水環境汚染)																				
3	水環境汚染の評価法・測定法(DO, BOD, COD, TOCの測定原理、数値の意味等について)																				
4	下水処理-1(活性汚泥法を中心とした有機物除去+高度処理&特殊処理)																				
5	下水処理-2(活性汚泥法を中心とした有機物除去+高度処理&特殊処理)																				
6	浄化槽による下水処理(浄化槽設置の背景・意味、環境への負荷等)																				
7	上水処理-1(普通沈殿-緩速ろ過、薬品沈殿-緩速ろ過)																				
8	上水処理-2(消毒)																				

	9	水辺の環境と生態系（水辺の環境が生態系に及ぼす影響）
	10	水環境の自浄作用（物理的作用、化学的作用、生物的作用）
	11	水環境の植生浄化（人工湿地、ビオトープなど植物を用いた水質浄化技術）
	12	水質汚濁に係る環境基準と水環境健全性指標（水環境の総合的な評価）
	13	人間活動と水資源枯渇問題（人間活動が要因となる水資源の枯渇問題について考える）
	14	水環境問題に対する国際社会の取組み（世界の水問題に対する国際機関による取組み）
	15	国際的な水ビジネス（世界的な水問題に対応する環境ビジネスの動向）
	16	試験
キーワード	水資源、水質汚染、上水、下水、水処理技術、水辺の生き物	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。プリント資料等を適宜配布する。	
成績評価の方法・基準等	講義中に行う小テスト（理解度確認テスト）30点＋期末試験70点の合計100点満点で評価。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	ノートをとらないと高得点は取れません。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B8 環境問題を考える**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586008901	科目番号	05860089
授業科目名	●環境問題を考えるⅠ(環境政策を考える)		
編集担当教員	西久保 裕彦		
授業担当教員名(科目責任者)	西久保 裕彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西久保 裕彦		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	h-nishikubo@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環448		
担当教員TEL	095-819-2717		
担当教員オフィスアワー	水曜日1200-1300		
授業の概要及び位置づけ	この授業では、地球環境問題などを解決し持続可能な社会を実現するための政策および法の現状を、国内および国際的視点から、事例を交えて学び、問題点などを考えます。また、様々な問題解決のアプローチについて、それぞれの立場で考えることにより、問題解決能力の素養を養います。		
授業到達目標	授業の到達目標としては、環境政策と法の現状を国内および国際的視点から理解し説明できることを目指します（②批判的思考、⑦基礎的知識、⑧環境の意義など）		
授業方法（学習指導法）	授業は基本的には講義形式により進めますが、受講生自らが考え質問や意見を出すことも大事ですので、授業を前半と後半に分け、それぞれについて提出していただいたコメントシートをもとに質疑応答を進めるとともに、随時クリッカーを使用するなどの工夫を盛り込みます。		
授業内容	授業の進め方やスケジュール、成績評価の方法などについては第1回目の講義で説明しますが、以下におおまかな予定を掲げておきます。		
	回	内容	
	1	イントロダクション：地球と私たちの環境について考えよう	
	2	環境問題の歴史について考えよう（その1）	
	3	環境問題の歴史について考えよう（その2）	
	4	水質汚濁対策について考えよう（その1）	
	5	水質汚濁対策について考えよう（その2）	
	6	大気汚染対策について考えよう	
	7	化学物質対策について考えよう	
	8	廃棄物の問題について考えよう	

	9	リサイクルと循環型社会について考えよう
	10	国立公園について考えよう
	11	生物多様性について考えよう
	12	持続可能な開発について考えよう
	13	環境基本法について考えよう
	14	原子力と私たちの暮らしについて考えよう
	15	まとめ
	16	筆記試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	教科書：「環境政策入門」盛山正仁編著 武庫川女子大学出版会	
成績評価の方法・基準等	定期考査によりますが、授業への積極的な取組状況について20%を上限として加味します。	
受講要件（履修条件）	本授業の資料は、主体的学習促進支援システムLACSで提供します。 授業外学習に充てるべき時間としては、週1時間以上を予定しています。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		

